



「あなたの神、主を愛せよ(1)」

申命記 6・1-9 (要旨) 説教者 原田憲夫

今週の聖句 マルコ 12・30

モーセは、イスラエルの民が40年の荒野の旅を終え、「約束の地」を目の前にした分岐点-「今日」-に立ち、神の民が進むべき道を訴えます(1~3節)。そして、そのために具体的に、明確な指標を示します(4~9節)。この4~9節から二回にわたり耳を傾けます。

【1】あなたの神、主は唯一である (4)

「約束の地」を目の前にして、モーセは「聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。」と、エジプトの奴隷の苦役からの解放者である神、主に従う道を神の民に力強く訴えます。

「唯一の神」は、申命記だけでなく聖書全体を貫く主題です。すなわち、万物の創造者であり、すべての被造物を保っておられる全知全能の神なのです。

言い換えれば、この唯一の神は私たちの存在の前提なのです。この神にあって私たちの人生が成り立つのです(→ I コリント 8・6)。

【2】あなたの神、主を愛せよ~心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして~ (5)

「約束の地」-カナンの地は、脱出して来たエジプト同様、多くの神々が祀られている世界です。人間の願いが凝縮された「神々」に囲まれた世界です。

そのような世界の中で、「唯一の神、主」を信じる道から外れないための「道しるべ」の中心が、所謂「十戒」です。¹

▶モーセは「神は唯一である」と語ったあとに命じます。

「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」

ここで注目したいのは、三重に「尽くして」を繰り返している点です。つまり、全身全霊を傾けて、全生涯をささげて、神を愛するということです。

この真っ直ぐな訴えにただ圧倒されるばかりです。けれども同時に、ここから何

か不思議な、生きる力、希望が湧いてこないでしょうか？

それは、この「…尽くし愛せよ」という三重の言い回しの中に「神の愛」が裏打ちされているのが観えてくるからです。

実に、神はご自分に背を向けていた私たち-罪人を救うために御子キリストのいのちを十字架上で犠牲にされました。

この十字架に裏打ちされた、「…罪人を愛し尽くす」神の真実の愛を観るのです。

【招き】

今の世界にあって、少数者であるキリスト信者が神々に頭を下げず「唯一の神」への純潔を貫くことは、歴史が語るように迫害と背中合わせの過酷な道を歩むことになるかもしれません。

けれども、その道を歩むことは、真実の神の愛の証言者となることであり、あらゆる束縛から解放された魂の自由人として歩む幸いな人生なのです。

さあ「今日」、主キリストに拠り頼み、「心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、私たちの神、主を愛します」(マルコ 12・30)と新たな決意で踏み出そうではありませんか！

* 祈り

* 賛美



¹ 出エジプト記 20 章、申命記 5 章参照。